



町の子供は町で育てる

滑川町教育委員会だより

「学んでよかった町へ -チーム滑川での教育-」

能力を生かす能力とは？～イチロー研究～

日米通算4,367本安打、718盗塁、レーザービームと称された強肩など、走攻守に際立った才能を見せた往年の名プロ野球選手イチローさんが、日米の野球殿堂入りを果たしたというニュースがありました。米国での受賞インタビューの中で「才能ある人たちはたくさんいます。僕の比較にならないくらい才能にあふれた人はいっぱいいます。それを生かすも殺すも自分自身だということです。自分の能力を生かす能力がまた別にあるということを知っておいてほしい。才能があるのになかなか生かせないという人はいっぱいいます。ケガに苦しむ人もいます。自分をどれだけ知っているかは結果に大きく影響しているということを知っておいてマイナスはないと思います」と語っていました。「能力を生かす能力とは何か」について私の考えを述べたいと思います。

一つ目は「姿勢」です。イチローさんの野球に取り組む姿勢が窺えるエピソードがあります。野球の日本代表「侍ジャパン」の元監督 小久保 裕紀さんは、プロ2年目にリーグのホームラン王になりました。ところが、あっさりタイトルを獲得したことが災いしたのか、勘違いをし天狗になってしまい練習不足からか翌1996年のシーズンは散々でした。その年のオールスターゲームで小久保さんはイチローさんに聞きます。「モチベーションが下がったことはないの？」するとイチローさんは小久保さんの目を見ながら「小久保さんは数字を残すために野球をやっているんですか？」「僕は心の中に磨き上げたい石がある。その石を野球を通じて輝かしたい」と応えたそうです。小久保さんは、顔から火が出るほど恥ずかしい思いをしたそうです。イチローさんの一言で「野球を通じて人間性を磨く」というキーワードを得た小久保さんは、2つ年下のイチローさんを師と仰ぎ、イチローさんの言動から学びます。その一つに「準備の準備」というものがあります。「準備に入る前に、その準備をする。それほど自己管理が徹底しているからこそレギュラーでなくなった今でも、パッと試合に出た時にあれだけ打てる。試合に出て当たり前だった選手が出られない葛藤は計り知れないはずだが、それでも準備を怠らない」（注：イチローさんは現役の最終盤は代打での出場が多くなっていました）イチローさんの姿勢を学んだ小久保さんは、2,000本安打400本塁打を記録する大打者に成長しました。

二つ目は、「不完全であることの自覚」です。米国野球殿堂は、全米野球記者協会に10年以上在籍する記者の投票で選ばれますが、イチローさんは満票に1つだけ足りませんでした。このことに関して「1票足りないというのはすごくよかったと思います。いろいろなことが足りない、人って。これを自分なりに自分の完璧を追い求めて進んでいくのが人生だと思うんですね」とイチローさんは語っています。あらゆる職業には、仕事をする能力を身に付けるという意味で「これくらいいいかな」というラインがあると思います。そして、99%の人間は、自分がそのラインに達したと思うと、（中には、そのラインにすら達していないことに気付かずにそのラインに達したと勘違いして）そこに居着いてしまいます。1%（もっと少ないかも知れませんが・・・）の人だけが、そのラインを超えようとします。「いまのままで十分じゃないか。これ以上努力する必要はないだろう」という心の声を振り切って、「自分はまだまだできていない」という学び足りなさや不完全であることの自覚に立って、アンラーン（学び壊し）リスキリング（学び直し）を続けてきたのがイチローさんなのではないでしょうか。私は、イチローさんに、哲学の祖とされるソクラテスの説いた「無知の知」を見いだします。「自分が依拠する思考をいったん括弧に入れ、自分の思考にクエスチョンマークをつけ、何を変えるべきか何が問題なのかを考えることが『無知の知』です」（鷲田清一）イチローさんの「自分をどれだけ知っているかは結果に大きく影響しているということを知っておいてマイナスはないと思います」という言葉は、イチローさんにおける「無知の知」なのではないでしょうか。イチローさんから哲学者のオーラを感じるの、そのせいかもしれません。

人間が成長するためには「姿勢」と「不完全であることの自覚」が必要である。私なりの「イチロー研究」です。皆さんは、イチローさんから何を学びますか。

○読み聞かせボランティアさんを紹介いたします。

滑川図書館では、二つの「読み聞かせボランティア団体」の方々にご活躍をいただいています。「おはなしサークルぷーさん」と「おはなしの部屋きらきら」は、毎月のおはなし会だけでなく「七夕おはなし会」「クリスマスおはなし会」という特別なお楽しみを入れた行事も実施しています。いつも、お子さんたちがニコニコ笑顔になる読み聞かせや紙芝居などで、図書館がほっこりしています。

どちらのボランティア団体もメンバーを募集していますので、一度、おはなし会の様子をご覧になりませんか。2月は下記の日程でおはなし会を開催します。多くの方のご参加をお待ちしています。予約の必要はありません。時間までに図書館1階お話コーナーにお越しください。

★2月のおはなし会★

2月12日(水) 11時～ 0歳～2歳向け
2月15日(土) 10時30分～ 3歳以上向け



○図書館と館長のおすすめ本（テーマ）

2月の図書館のおすすめ本は「環境」です。私たちを取り巻くものすべてが環境と考えられます。気候、自然、町、人、これらの影響を受けながら、また、つきあいながら私たちは暮らしています。これからも持続していく社会づくりのためには、どんなことが大切なのでしょう。考えるきっかけにさせていただきたいと思えます。

館長のおすすめ本は「SNS」です。SNSを上手に使いこなしながら、生活に取り入れている人は多いと思います。半面、SNSにより傷ついたり、犯罪の入り口になっている面もあります。今後一層、生活の中に取り入れられるSNSについて、正しい知識や使い方を学ぶ必要がありそうです。

新シリーズ
第1回

「滑川町の歴史」 part 1

旧石器時代の滑川町

日本では、旧石器時代は約15,000年から約35,000年前までのおおよそ2万年間にあたります。旧石器時代は火山の活動が活発で、関東地方では堆積した火山灰によって「関東ローム層」と呼ばれる赤土の層が形成されました。旧石器時代の遺跡のほとんどは、この赤土の層から発見されますが、骨や木などを溶かす酸性の土であるため、遺跡から出土する遺物は、石器や石器製作時に発生する剥片、焼けた石の集まり(礫群)など、ごく限られた生活用具に限られます。

滑川町でも、月輪の大堀遺跡でナイフ形石器と呼ばれる旧石器時代の石器などを含めて、いくつかの石器類が採集されており、町の指定文化財になっています。また、羽尾の大谷遺跡や都の工業団地内などからも、石器類が採集されています。いずれも、発掘調査によって見つかったものではありませんが、石器が採集されていることから、旧石器時代の後半頃には滑川町にも人の活動があったと思われます。

しかし、石器類のみしかないので、その実態はよく分かっていません。



月輪大堀遺跡のナイフ形石器